

松山隆の

学校経営案

松山隆は、明治18（1889）年に野田町で生まれ、千葉

師範学校を卒業後、2年間小学校の教育現場を体験した後、同40（1907）年春から広島高等師範学校へ進学、4年間の過程を経て卒業します。

その後、愛媛県女子師範学校や山口県師範学校の教諭を勤め、さらに広島高等師範学校徳育専攻科に進学した後、愛媛県師範学校の教諭を経て、大正14（1925）年4月、母校の野田尋常高等小学校（現在の野田市立中央小学校）に着任します。

同校に着任すると松山はすぐに「学校経営案」を作成して、



松山が作成した「学校経営案」



昭和3年に完成した野田尋常高等小学校の校舎

校舎の改築や校地の整理、プールの設置、そして教員の質の向上を掲げました。

当時、ひとつの小学校の学級数は24クラスまで、という文部省の方針を大きく上回り、50クラスを超える教室があった同小学校ですが、一人でも多くの児童を学ばせたい松山は、条件がそろえば60クラスまでの経営は可能である、と大規模校の運営を示唆していました。実際、昭和3（1928）年3月、鉄筋コンクリート3階建て40クラスの校舎が、また、同7（1932）年7月にはもう一棟、鉄筋3階建てで22クラスの校舎が落成し、校舎改善



松山隆校長

案は現実のものとなりました。プールは小学校児童のみではなく、町内の青年にも開放することを計画し、詳細な建築案も作りましたが、残念ながら昭和28（1953）年まで実現には至りませんでした。

しかし、教員の質の向上では、松山自身が講習会や研究会を実施して、教員の実力の向上も図る一方で、教員の安定した生活の保証を行ったうえで、優秀な教員をどんどん採用していきました。体育の宇佐見守、画画の栗林丈、そして音楽の山中直治などです。

直治は、大正14年4月、同小学校の教員となり、松山と同じタイミングで着任します。松山は、大変趣味が広く、中でも音楽は好きだったようです。直治も、松山や乗松と出会ったことで、音楽の才能を一気に開花させていきます。※文中敬称略（次号へつづく）
【参考資料】「近代野田町教育小史（上）（下）」郡司美枝／野田市史研究14・15号

10月の休日当番医

休日当番医での診療時間
 外科・産婦人科 = 9時～22時（ただし16時～19時は除く）
 内科 = 9時～16時（19時～22時は急病センターで行います）

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
4日(日)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)	尾崎台クリニック(☎7127-6677)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
11日(日)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	野田病院(☎7127-3200)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
12日(月)	門倉医院(☎7124-5311)	あらい内科クリニック(☎7122-5723)	小張総合病院(☎7124-6666)
18日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	山縣医院(☎7125-3741)	アイレディースクリニック(☎7137-7661)
25日(日)	西村クリニック(☎7123-0050)	梅郷痛みと内科のクリニック(☎7126-1900)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認をしてください。


急病センター ☎7125-1188

▼内科(小児科) = 19時～22時(毎日)
 ▼歯科診療 = 9時～12時(休日)

▼涼しくなり読書の秋となりました。今年は大宰治生誕100年。巷では生誕を記念したさまざまなイベントが行われています。特に「斜陽」「人間失格」などの小説が映画化。先日開催されたモンテリオール世界映画祭では「ヴィヨンの妻」が監督賞を受賞▼野田市も来年5月3日で60回目の誕生日。本号11面では、記念事業となる市民提案事業やシンボルマーク、キャッチフレーズを募集しています▼秋の夜長、読書のかたわら、野田市を祝うアイデアを考えてみてはいかがでしょうか。(え)


編集後記

市の木




けやき

市の花



つつじ

市の鳥



ひばり